

柱 1 ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

1-1 公害のない安心・安全な暮らしの確保 1-1-1 事業活動等から生じる典型 7 公害に係る環境基準及び関連規制を満たします。 1-1-2 ため池の水質改善を図ります。 1-1-3 河川・海域の水質改善を図ります。 1-1-4 地場産業である畜産業の発展のため、ふん尿処理に起因する臭気について、対策を図ります。 1-2 快適な市民生活環境の確保 1-2-1 交通流円滑化・交通量低減対策を図り、交通渋滞を解消します。 1-2-2 住環境の向上を図るため、市街地を整備します。 1-2-3 生活に起因する環境問題について、適切な対策を図ります。	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	AA	0 人	B	1 人
	A	10 人	C	0 人
		良好です		
	AA			
		概ね良好です		
	A			
		改善・見直しの必要があります		
	B			
		改善・見直しを行い、一層の努力が必要です		
	C			

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
I ひと	大気汚染に係る環境基準達成率 100%は評価できる。	→	H21～常に 100%このまま維持してもらいたい。
I ひと	指標とする河川のほとんどで、元年度の BOD 濃度が目標値を下回るか、又は同等程度となっており、概ね良好な値を示している点を評価します。また、公共下水道の普及率・整備率も非常に高い値を示している点についても評価します。	→	BOD 濃度が目標より高い値で推移している矢勝川についても、今後目標値に近づく取組を進めていかれることを期待します。
I ひと	大気汚染、河川の水質などの典型 7 公害と公共下水道普及率などが着実に改善されたことは評価出来る。	→	
1. 大気	大気汚染に係る環境基準の達成率100%。	→	観測点を増やしデータの信頼度が高まれば良い。
1. 大気	大気、水質、自動車騒音測定の実施している点。	→	大気測定については、工場立地の沿岸部、風向きなど考慮して、市内の複数個所で定点測定をしてほしい。 自動車騒音測定その他、車両台数、乗用車、トラックなど車種など公開してほしい。
1. 大気	大気、水質、地下水位、騒音等が定期的に測定され、HP 等で公表されているのは良い。また基準値超え等の対応も検討されているのもよい。	→	今後も継続し記録の保持も継続実施を願います。
2. 協定	協定締結者数を増やし締結事業者の監視を実施している。	→	より多くの事業者に広まると良い。
2. 協定	環境保全協定の新規締結数が着実に増えている点。	→	

実績報告 ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
2. 協定	既存、新規いずれの事業者に対しても環境保全協定への参加を増やしている点を評価します。	→	既に協定に参加している業者について、毎年の報告書の提出のみならず、さらに環境保全の取り組みを一步步進化させるよう、促されることも期待します。
2. 協定 3. 立入	協定工場等に対し、10事業所への立ち入り調査実施は評価できる。	→	協定工場等に対して、少なくとも5年に1回程度は立ち入り調査を実施しコミュニケーションが充実し緊張感が有る状態を保つ事も重要。
4. ため池水調	水質改善などでは、定期的に水路を開放し改善してほしい。	→	ため池清掃から、ため池機能を生かした様々な活用を募集して下さい。
4. ため池水調	4か月毎にため池の水質調査を実施するなど現況把握への努力の姿勢は評価できるが、改善の為の提案が弱い。	→	かつて公共下水道が普及すると水質改善が進展すると聞いたが、あまり効果があがっていない中、更なる改善・提案が必要。
4. ため池水調 6. 河川・海域	池や川の水質結果は人間生活には直接関係ないが自然環境を把握するためには重要な要素である。地道に継続されていることは評価できる。	→	矢勝川河口（高田橋）付近と阿久比川（島田橋）付近とを、同時に取水しその分析結果を見たい。 ※どちらも阿久比町になるかも知れないが ※島田橋までは海水が遡上するのでその時は取水を避ける
4. ため池水調 6. 河川・海域	水質改善など科学的数値と同様に「生き物調査」による可視化できる調査もとり入れてほしい。	→	「生き物調査」を公表し、個体別生息数の変化は市民の動機付けになる。
6. 河川・海域	矢勝川の底質の有害物質分析を実施したことは、極めて、評価できる。	→	
6. 河川・海域	水質は改善傾向にあるが、河川、海域が市民に親水域の施策が弱い。	→	市民にとっては、一番身近な自然と接する場として、海辺を利用できる構想を謳って欲しい。
6. 河川・海域	矢勝川水質浄化に向けて、流入水調査等の実施を予定されていること。大変な作業だと思います。	→	関係者、地域への現状周知を徹底していただくとともに、協働の連携にて水質が改善されることを期待する。
7. 川づくり	住民要望などに対応し、計画的に実施できた旨のコメントであるが、河川内の除草防草対策が現況で良いのか。	→	
8. 下水	11. 今後の取組方向 徹底した訪問活動は大変なので評価できる。	→	特に、池の上流域にあるお宅には重点的にしていただきたい。
10・11-1. 臭気	臭気を測定し基準値を上回った農家に直接お願いしている点。	→	臭気低減の活動を継続して欲しい。
10・11-1・2 臭気	ほとんどの畜産施設で臭気の低減がなされていることや基準値を上回った臭気農家に対しての訪問指導や補助（資金援助）については評価できる。	→	基準値を上回った臭気農家に対しての科学的で具体的な新たな対策の提案や、資金援助を行っていないと農家の負担は大きくなるばかりである。
10・11-1. 臭気（経済）	農家に対して、データを用いて改善指導を行っている点。	→	
10・11-1. 臭気（経済）	臭気測定の根拠をもって基準値を上回った農家への直接訪問指導という積極的姿勢は評価できる。	→	かつて京都の八木町のバイオマス発電所を視察したが、全く畜産臭気は感じなかった。今後市内のバイオマス発電所との連携も必要。

実績報告 ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
10・11-1. 臭気 10・11-2. 臭気	畜産業による糞尿対策を大学等と共同で実施し、農家の方とコミュニケーションを図り、問題及び実施事項、結果を共有していく事は良い。	→	河川汚濁の防止も期待できる。
12. 名鉄	交通渋滞の解消に資する青山駅周辺の高架化について、目標より早い平成28年度に事業完了された点を評価します。	→	高架化事業の完了に伴う環境改善効果について、定量的な評価（渋滞時間や渋滞長の提言、CO ₂ の削減など）を示されることを期待します。
13. J R	JR 武豊線の鉄道高架化事業に関連する工事が開始されており、実現へ進んでいるのは評価できる。	→	名鉄河和線の成岩駅以北について計画推進活動を願います。
14. P & R	パークアンドライド利用者の達成。	→	パークアンドライドの他にも駅前月極駐車場等幅広い利用者のニーズに応えられると良い。
17. 屋外	通報に対して素早く対応している点。	→	
18. 雑草	雑草に係る苦情件数が増加傾向にある点。	→	雑草を繁茂させている土地所有者に対し地道に指導されていることは大変評価できますが、苦情件数を減少させるには、より強い強制力を持たせた枠組みづくり、又は土地所有者と周辺住民を繋いで協働により解決に向かえるネットワークづくりなどが必要と考えられます。
19. ふん害	イエローチョーク、イエローカードの有効性は評価できる。	→	地域猫活動についてはその地域の住民が知らない事が多い。やりっぱなしのエサが腐敗しハエがたかっていたり、地域猫用のトイレが設置されていなかったりと苦情がある。周辺住民によく説明し理解を得ることが必要。

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
1. 大気 6. 河川・海域	矢勝川のBODはC評価が続いており、根本対策が未着手である。	→	市の重要課題との認識の共有度が低い。
4. ため池水調	ため池のCODが大幅に高い。	→	様々な要因が考えられるが、水質改善への効果的な手段を見つける必要がある。
4. ため池水調	コメント欄の「内的要因での水質改善は困難」と結論づけては計画推進が困難でこの姿勢が問題。	→	
6. 河川・海域	矢勝川の水質悪化の原因不明。	→	水質悪化の原因を突きとめ、早く対策をとることが必要。
7. 川づくり	主体的取り組みの「語句」と事業（施策）名の「語句」とがかけ離れている。	→	自然環境に配慮した「防災工事」ならよしとするが、内容はどう見てもそうではないと思われる。 特に 12. 課題の文言はタイトルとかけ離れている。
14. P & R	雁宿駐車場の車道側にあるトイレが非常に汚く荒れていた。	→	利用者が少ないのか（汚いから少ないのかもしれない）管理されているとは思えない状態でした。
17. 屋外	屋外燃焼行為の増加。	→	周知徹底をはかり、悪質な場合は罰則を適用する。

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
18. 雑草	板山小学校正門の近くでなおかつほとんどの児童が通行する通学路に地域の方も困っている「ゴミ屋敷」がある。廃品が道路にはみ出していて、子どもたちの安全が守られない状況にある。	→	他にもあると思われるこのような「ゴミ屋敷」に対する適正な指導を、是非行っていただきたい。

柱2 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

2-1 温室効果ガス排出量の削減		パートナーシップ会議評価			
2-1-1 市内の温室効果ガス排出量を把握し、地球温暖化対策を各分野ごとに効果的に推進します。					
2-1-2 産業・業務部門での対策を推進します。		各委員評価			
2-1-3 運輸部門での対策を推進します。		AA	0人	B	5人
2-1-4 家庭部門での対策を推進します。		A	6人	C	0人
2-1-5 市（行政）において率先して行動します。			良好です		
2-2 資源循環型社会の構築		AA			
2-2-1 ごみを出さない（発生抑制）ライフスタイルや事業活動を促進します。			概ね良好です		
2-2-2 リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）を推進します。		A			
2-2-3 廃棄物の適正処理を推進します。			改善・見直しの必要があります		
2-3 環境に配慮した事業活動を推進します。		B			
2-3-1 環境マネジメントシステムの導入促進を図ります。			改善・見直しを行い、一層の努力が必要です		
2-3-2 事業者による周辺住民との自主的なリスクコミュニケーションを促進します。		C			
2-3-3 中小企業等の環境に配慮した事業活動を推進します。					

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
II 地球	市民1人1日当たりのごみ排出量は、環境行政の根幹のバロメーターであり、それが着実に減少傾向にある。 家庭部門CO2排出量が集計されたことは、1歩前進である。	→	その構成、問題点がその中から摘出される事が望まれる。
20. 地域計画	温室効果ガス排出量のデータをホームページに公表し、市内率先行動として取り組んだこと。	→	温室効果ガス排出量を算出・推移の分析をし、具体的な市民の防止行動を示し、推進していくこと。 また、市民・事業者への革新的な施策を打ち出すこと。
20. 地域計画	市長が「2050年CO2排出量実質ゼロ」を表明した点。	→	実現のための計画策定と、それに基づいた現施策の見直し。
20. 地域計画	明確な目標として「2050年CO2排出量実質ゼロ」を市長が表明し、市内一体での取り組みの方向性事は評価できる。	→	具体的なロードマップの公表も期待。
20. 地域計画	半田市（本体）としての温室ガス排出量のHPでの公表は評価できる。また「2050年CO2排出量実質ゼロ」にむけての2030年までの計画作成も評価できる。	→	市の施設・設備等新設時の「2050年CO2排出量実質ゼロ」に向けた対策も必要。（30年程度使用されると推測します）

実績報告 ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
20. 地域計画	半田市の CO2 排出量が目標値より大幅に減少傾向にあり、2050 年 CO2 排出量実質ゼロへの市内一体の取り組みは評価できる。	→	
21. 配慮協定 （再 40）		→	エコ事業所とエコファミリーの省エネルギー行動に対する具体的なメリットの付与。
21. 配慮協定 （再 40）	エコ事業所の登録制度の見直しを進めたことは評価できる。	→	
22-1 エネ資源	バイオマス産業都市構想の推進としてバイオマス産業施設の着工に寄与し、推進した事は評価できる。	→	臭気、河川汚濁防止が期待できる。
31. 新庁舎	環境に配慮した新庁舎の建設を、計画目標年度を待たずして平成 27 年度に完了させた点を評価します。	→	新庁舎完成に伴う CO ₂ 削減効果をはじめとする環境改善効果について、定量的な評価（はんだエコアクションの削減目標 10%との比較など）を示されることを期待します。
22-1. エネ資源	臭気の原因である糞尿をバイオマスエネルギー源として利用を推進している点。	→	実現化していないが、将来に向けて期待できる。
22-2. エネ資源	バイオマス産業都市構想が計画通りに進んでいるので評価できる。	→	畜産糞尿の活用で早く畜産農家の悩み、苦勞を解消してもらいたい。
22-2. エネ資源	バイオマス事業の推進。	→	糞尿処理から家庭の生ゴミ処理まで利用できるようにしてほしい。
22-2 エネ資源	ごんくるバスの導入は今後の高齢化社会、CO2 排出削減に対して有効である。	→	乗車率向上に向けた施策を実施し、長期的に継続する事を期待します。
23. 公共交通	バス利用者数を増やした点。	→	バスや自転車を車よりも優遇する。バスアプリの制作。
23. 公共交通	「ごんくる」バスが運行し 2 年目、地域主体のやり方は評価してよいのではないかな。	→	知多バスの利用者数と「ごんくる」利用者数の比較がほしい。
30. 率先	CO ₂ 削減に向けた省エネ法 S クラスを目指す取り組み。	→	市の率先行動が実効性のあるお手本となるよう期待します。
33. 緑カーテン	地球温暖化防止行動を「楽しく」家庭で行う方法を考察することは評価できる。	→	家族で取り組める「楽しく」行動できるものを期待します。
24. P & R	パークアンドライドの目標を達成している点。	→	パークアンドライド以外にも駅前月極駐車場等幅広い利用者のニーズに応えられると良い。
29. 太陽光	太陽光発電の計画目標を達成している点。	→	今後も地球温暖化対策への取り組みに期待する。
35. 防犯灯	防犯灯の LED 化を、計画目標年度を待たずして平成 26 年度に完了させた点を評価します。	→	LED 化に伴う CO ₂ 削減効果（電気使用量からの類推など）について、定量的な評価を示されることを期待します。
38. 有料化	市政懇談会において家庭ごみ有料化の説明は評価できる。	→	今後住民説明会も開催し市民に周知していくと思いますが、説明会に参加しない方の対応もお願いします。
41 分別	公共資源回収ステーションの開設は評価できる。	→	今後も市民が分別に協力しやすい方法を増やして欲しい。

実績報告 ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
41. 分別	「刈草・剪定枝の資源化」は当然ながら評価できる。 もっと、早くから始められれば、より、よかった。	→	

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
Ⅱ. 地球	家庭部門 CO2 年間排出量の評価 C はいかがなモノか。 ※今までの数値も実質的には意味無く無駄だった。	→	参考値を基準にして評価しても意味がない。
Ⅱ. 地球	電気、都市ガス、家庭部門 CO2 排出量の 1 世帯当たりの年間量が R1 年度未記入。	→	CO2 削減を進める上で重要な数値となる為、他市町村を参考に把握方法の検討を継続して検討願います。
Ⅱ 地球	地球環境の保全は、半田市の全ての活動を CO2 換算値で捉え、市民に対して、生活との関係を分かりやすく説明する必要がある。 その上で、各家庭の身近な CO2 の削減活動に結びつける必要が有る。	→	左記の 2 つの問題点を解決する方法として、エコファミリー制度に「1 人 1 日 CO2 1 kg 削減活動」を適用し、2 つの問題点を解決する方法を提案します。（この活動は、多くの市民活動、会社で採用され、成果を上げています）
Ⅱ. 地球 36. ごみ減啓発 38. 有料化 42. 市民参加リユース	一人 1 日当たりのゴミ排出量が C 評価で増加傾向である。	→	リサイクルのさらなる推進が必要（仕組みのさらなる進化）、及びリサイクル率の評価方法の再検討
20. 地域計画	家庭ごみ減量対策としてゴミ処理費の有料化が効果的と説明され、処分方法は焼却としているが、「ゴミは資源」考え方を重視してほしい。	→	家庭ごみは、水を燃やすような物と言われており、たい肥化、バイオマス燃料など研究課題とすべきと思います。 バイオマス発電を推進するのであれば、検討すべき課題です。
20. 地域計画	家庭部門の CO2 排出量が元年度は増加した点、これにより「20. 地域計画」の自己評価が AA→B に低下した点。	→	市民が CO2 排出削減を身近に感じ、「自分ごと」として取り組んでいただけるような施策を期待します。
21. 配慮協定	目標値の設定根拠がおかしいのではないかと推測する。	→	登録のメリットもなければデメリットもないのか、それとも、むしろデメリットが目立つのか、どうなのか検証はしているか。
23. 公共交通	JR 武豊線の利用促進。	→	武豊線の亀崎駅について歴史は古いが、立地環境が現在の利用者のニーズに合っていない。車や自転車の対応ができていない。 また、半田東高校や日本福祉大学などの生徒や学生がとても使いづらい位置にある。建て替えまたは新しい駅の新設を検討してほしい。 （高校や大学に人が集まらないことはよい人材が集まりにくいし発展しにくいのではないかと考える。）
23. 公共交通	路線バスの利用促進。	→	通勤時間帯や夜遅くに走るバスの増便を考えてほしい。 また、運転免許を返納した方などが買い物に行くために便利になったと言いがたい。

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
27. エコライフ	エコライフを実現する制度として、エコファミリー制度が有るがその登録数の推移が低調である。	→	その重要性和活用方法の認識が不足しているように思われる。
27. エコライフ 29. 太陽光	R1 年度の県の太陽光設備導入補助に対する市町村リストに当市が該当する旨の記載が無かった。（県の資料）	→	補助が受けられない。
36. ゴミ減啓発	ごみ排出量が削減されない。	→	販売から気をつけないとごみは減らないと思われる。
36. ゴミ減啓発	市民のごみ排出量が増加し、またリサイクル率も横ばい傾向である点。	→	ごみ減量を市民に具体的に実行してもらえような施策を期待します。
42. 市民参加リユース	もったいないバザールを令和 2 年度で終了予定のこと。	→	フード・ドライブなど他のイベントの検討とありましたが、もったいないバザールは、フードは扱っていない。全く別である。やっと市民に開催が周知され、例年の人気ぶりを見ても、なぜ終了するのか疑問に思う。リユース、リサイクル実現で必要な人に使用してもらうことは良いことだと思う。

柱3 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

3-1 うるおいのある緑・水空間の整備 3-1-1 緑や水と親しみ、身近に感じられる場を保全・創造します。 3-2 生物多様性の保全 3-2-1 生態系ネットワークに配慮した自然環境保全及び整備を推進します。 3-2-2 特定外来生物についての対策を図ります。 3-3 環境面からの農業振興 3-3-1 環境保全機能を持つ農地を保全します。 3-3-2 緑地確保のため農地の活用を図ります。 3-3-3 地産地消を推進します。	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	AA	0人	B	1人
	A	10人	C	0人
	 AA	良好です		
	 A	概ね良好です		
	 B	改善・見直しの必要があります		
	 C	改善・見直しを行い、一層の努力が必要です		

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
III 自然	半田市は、多岐に渡る緑と水に恵まれ、それが維持され、少しずつ改善されている。	→	
55. 緑計画	上位計画と整合性を図り緑の基本計画を改定したことは評価できるが、環境基本計画の施策としては弱い。		
56. 七本木 57. 雁宿公園 58-1. 親水（市街地）	七本木池、雁宿の公園整備事業や、稗田川・平地川の修景整備事業が完了した点を評価します。	→	事業完了に伴う効果（緑地面積の増加など）の定量的評価を示されることを期待します。
57. 雁宿公園 58-1・2・3. 親水	河川やため池等の親水性を考慮し、散策ができるような広場や公園、歩道等の整備が進んでいること。	→	今後も草刈り等の管理をしっかりと行い、河川やため池等の親水性を考慮した整備をお願いしたい。
58. 親水	公園整備や緑化対策を継続的に取り組んでいる。	→	その地形に合った、公園化、緑地化を進めてほしい。地形の平坦整備は、景観を均一化し地域の特性が消えてしまう。
62. 生物	水生生物調査、環境学習への活用は評価できる。	→	今後もデータを蓄積し資料更新、環境学習に活用して欲しい。
62. 生物	池や川の生き物調査は重要で、その毎年の実施は十分評価できる。		
62. 生物	環境学習出前講座など子供たちの環境意識の醸成を図ったことは評価できる。		
62. 生物 64. 観察	水生生物調査や自然観察会などを、一定の参加者を得ながら継続的に開催されている点を評価します。	→	今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、3密を防ぎながらのイベント開催等が求められるため、工夫して実施いただけることを期待します。

実績報告 ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
64. 観察	有効な環境学習の一つとして実施は評価できる。	→	
64. 観察	自然観察会は評価できる。		多くの子供たちと大人にも身近な自然を知ってもらいたい。外来種の影響についても知ってもらいたい。
64. 観察	自然観察会を 4 回実施している。	→	参加者も亀崎海岸 45 名、運動公園 43 名と多数参加があり、今後に期待します。
64. 観察	自然観察会の開催。	→	自然とのふれあいを通じた環境保全の大切さを理解できるととても良い催しだと思う。参加者の増加を期待します。
64. 観察	自然観察会を計画どおり行っている点。	→	子供が自然に興味を持ついい機会なので継続して頂きたい。
66-2. 生物河川	「自然環境、生態系に配慮したため池の整備は実施していない」と正直に記したところを評価したい。	→	市が単独でも予算化して、1ヶ所でもできたらと思う…夢。
67. 環境マップ	調査結果を基にした”水辺マップ”の更新も評価できる。	→	何年ごとに更新するか決めておく予算化しやすい。
75. 食育	児童体験農業を行い、食育を推進している点。	→	興味のある小中学生が多いと思われるので、活動を広げて頂きたい。
76. 学校給食	学校給食への地元農産物の使用は評価できる。	→	子供達に地産地消であることをしっかり伝えて欲しい。

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
58. 親水	親水公園化する前に、事前に動植物調査をやって欲しい。	→	固有種の新発見や、生態系の変化を公表してほしい。
60. 地域緑化	緑化推進は緑を増やすと同時に、既存の植物体系を変えることであるので、事前調査をやって欲しい。	→	固有種の新発見や、生態系の変化を公表してほしい。
63. 希少	希少野生動植物についての市民への周知。	→	希少野生動植物について生息域の情報収集等を進め、広く市民に情報提供してほしい。
63. 希少	希少野生動植物調査はしていない。	→	この様な場合（実施してない）、評価はどうあるべきか。 ※実施できない理由（原因）によって評価が違って来るかどうか。
66-1. 生物河川	1. 主体的取組の文言に対し、11. 今後の取組方法および12 課題の文言は全くの的外れ。それで評価が A A とはどうしたものか。	→	実施していない状況にあって、どのように評価をするか取り決めがないことに起因している。
68. 外来調査	1. 主体的取組「特定外来生物の調査」の”調査”はしていない。でもって、この評価[B]が妥当かどうか。	→	実施していない状況にあって、どのように評価をするか取り決めがないことに起因している。
74. 耕作放棄地	農地の荒廃や耕作放棄地の解消等の農地の有効活用。	→	農業従事者への支援が必要。
74. 耕作放棄地	狭小、未接道等の条件の悪い農地の放棄地についての対策をするべきと思う。	→	家庭菜園をしたくても、庭が（駐車場確保のため）なく、できない市民がたくさんいます。是非そんな仲介サービスをやっていただけないものかと考えます。

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
74. 耕作放棄地	耕作放棄地の面積は前年度より減少したものの、目標の達成には減少幅が大きく不足している点。	→	意欲のある耕作希望者に確実につないでいくための具体的な施策を期待します。
77. 地元	地場農産物の直売の場が少ない。	→	常設の場の提供の検討。

柱4 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にするまち

4-1 美しく半田らしい景観の整備 4-1-1 美しいまち並みを保全・創造します。 4-2 歴史的・文化的環境資源の保全と継承 4-2-1 地域の歴史的・文化的資源を保全・継承するとともに、環境に配慮した観光資源の整備を推進します。 4-3 ゆとりややすらぎ、活気のある空間の整備 4-3-1 公園や広場等の市民が憩う場の整備を推進します。 4-3-2 環境に配慮した中心市街地の整備を推進します。	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	AA	2人	B	2人
	A	7人	C	0人
		良好です		
	AA			
		概ね良好です		
	A			
		改善・見直しの必要があります		
	B			
		改善・見直しを行い、一層の努力が必要です		
	C			

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
IV. ふるさと	一人当たりの公園・緑地面積は継続的に増加し目標を達成している。	→	今後も計画的に整備し、質の高い魅力的な公園の整備も期待します。
IV. ふるさと	地域の歴史的遺産が整備され、市民に分かりやすく、また、観光資源としても充実しつつあることは評価できる。	→	
78. 景観計画	地域の若者を中心に、地元が中心となり、景観に配慮したまちづくり方針を策定したことは評価できる。		
78. 景観計画	景観形成重点地区において補助事業の活用に向けた住民へのPRは評価できるが、その実績は？		
79. 景観意識 84. 運河	半田市PR冊子「はんだマニア」を作成し、配付することで市民の景観意識の向上を図ったことは評価できる。	→	今後も半田らしい美しいまち並みの保全・創造をお願いしたい。 運河に観光船を運航させてはどうか？
80. 運河 83. 山車 86. レンガ	運河の再生や赤レンガ建物の整備、またははんだ山車まつりの開催など、歴史や文化を活かしたまちづくりを着実に進めている点を評価します。	→	運河、山車、新美南吉など、市外にも有名な歴史・文化を、それら以外の隠れた歴史・文化資産ともうまく連携させて、市内外にPRされるような施策を期待します。
81. 広告物	違反広告物の除去により景観を保全できている点。	→	権限を持って積極的に行えると良い。
82. ゴミ散乱	ごみゼロ運動、ポイ捨て禁止の呼びかけ運動。	→	場所を変えての今後の継続的な運動展開を期待します。
87. 文化財	文化財よもやま話は文化財について知ることができ評価できる。	→	文化財に興味を持てるよう今後も継続を希望します・参加者も多いですが、小・中・高・大学生も参加したくなるよう工夫して欲しい。
88. 公園	公園の維持管理が計画的に行われている点。	→	市民が安心して使用できる様に今後も維持管理を継続して行って頂きたい。

実績報告 ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
89. 七本木	事業が完了し、多くの市民が活用している姿はこの事業の有効性を語っている。		

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
78. 景観計画	景観アドバイザーの助言を受け入れたいが、補助制度が脆弱で費用面から受け入れられない状況がある。		
82. ごみ散乱	空き缶、紙くず、たばこの吸い殻等のポイ捨てを防止し、景観美化を推進する。	→	亀崎衣浦大橋から阿久比町に向かう道路沿いではまだまだ空き缶、紙くず、たばこの吸い殻等のポイ捨てが多い。
82. ごみ散乱	はんだ市報及びH P への啓発記事の掲載。	→	ゴミを捨てる人、犬の糞を片付けない人の心に届いていない。 数人でパトロール（散歩）して声掛けをする。 ゴミがなくて気持ちよい散歩道ですね。 犬の糞の始末をしていただいてありがとうございます。 おかげで気持ちよく散歩できます。
87. 文化財	半田市の重要文化財に対する保存整備が不十分な状態。		特に亀崎地区（立川美術館）や戦跡関係の保護には、民間有志に任せるのみでなく、計画的な補助支援を望む。
90. 雁宿公園	市内で一番身近で、規模の大きい公園です、野球、テニス、児童遊園、散策など多面的機能がありますが飲食できる休憩所がありません。	→	公営の売店や、産直直売所など設置してほしい。
93. J R	J R 武豊線の沿線整備。	→	J R 亀崎駅及び乙川駅付近の整備も必要である。利用客が増えているので、車が入りしやすいようにしたり、自転車置き場を新設したりする必要がある。

柱 5 みんなで環境を守り育てるまち

5-1 環境学習の推進	パートナーシップ会議評価			
	各委員評価			
	A A	0 人	B	5 人
	A	5 人	C	1 人
5-2 市民・事業者・行政による良好なパートナーシップの形成	 AA	良好です		
	 A	概ね良好です		
	 B	改善・見直しの必要があります		
	 C	改善・見直しを行い、一層の努力が必要です		

実績報告ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
V. 協働	環境学習は、将来の環境保全に、極めて重要である。その観点から、地道に展開していることは評価できる。	→	
95. 学習体系	様々な環境学習プログラムを継続的に実施され、その結果の市民への情報提供も積極的に行われている点を評価します。	→	今後も市民への情報発信を進め、環境意識の醸成に努めていただくことを期待します。
96. J E C	環境学習の推進において、「子どもエコクラブ」だけでなく「たけのこクラブ」の2団体の支援を行った。	→	環境学習を目的としたクラブ活動はもとより、目的が環境学習ではなくても、環境学習を取り入れた活動をしている他のクラブ活動への支援を広げてほしい。
97. 親子	10。事業の実施を一時休止や廃止で取りやめたこと。 ただし、取りやめたのに、評価が[A A]とは何が根拠か疑問が残る。	→	
97. 親子	環境学習イベントの参加人数 600 人は数字の上で評価できる。しかし、環境学習の施設の見学やエコクッキング等の環境学習体験はいずれも困難で廃止となっており、他に代替の施策はないのか見直しが必要。	→	
98. 保全活動 109. 環境情報	環境保全活動についての活動を積極的に行っている点。	→	P R を多方法で行い、周知が広がると良い。
102. 稲作	稲作体験の実施。（種まきから稲刈りまで一連の体験）	→	子供たちに体験してもらうことで、環境のみならず、いろいろな面での教育効果が期待できる。（命や就労他）

実績報告 ページ	評価できる点（良い点）	→	期待したい点
102. 稲作	稲作体験を実施し環境学習を推進している点。	→	体験農業等をもっと多くの人が体験できる様になれば良いと思います。
113. 表彰	環境保全ポスターコンクールは環境に関心を持つきっかけになり評価できる。	→	掲示は最優秀賞、優秀賞だけでなく佳作も掲示して欲しい。賞に選ばれなくてもすばらしい作品が多いので佳作も掲示して欲しい。

実績報告 ページ	評価できない点（悪い点）	→	問題と思われる点
V. 協働	アダプトプログラムは環境の専門用語であり、分りづらい。 その意義と具体的な実践法を分かりやすく説明し、着実に展開する事が必要である。		
V. 協働	環境学習イベント参加者、アダプトプログラム登録者数が前年を下回った点。	→	市民が楽しく、主体性を持って参加してもらえするための工夫を期待します。
97. 親子	環境学習施設の見学やエコクッキング等の環境学習体験がいずれも困難、廃止となっており、代替施設の検討等改善見直しが必要。		
101. 学校EMS	未実施。	→	各学校で先生と生徒が考えていくのはとてもハードルが高いと思う。パートナーシップ推進部会で運用方法や取り組み方法等知恵を出し合ってみてはどうでしょう？まずはEMSを学ぶところから。
103. 企業支援	企業支援による環境学習。	→	「はんだエコ探検ツアー」の参加者が少なく中止をしているが、せっかく企業の協力が得られているので、魅力あるツアーを企業とともに企画して、参加者の増加をめざしたい。評価はBでよいのか？
104. 養成学習 106. 人材活動	人材（環境学習指導者等）の活用のさらなる充実も必要。	→	環境課として橋渡しをする等により、充実した活用を図る。
110. 交換会	推進部会の開催が1回だけで、活気がない。	→	発足時はとても活発な意見交換が行われていたが、ほとんど廃用状態。今後は継続する必要があるのか疑問に思う。
110. 交換会	環境保全団体の高齢化。	→	環境保全団体の育成を考えていく必要がある。若い世代が魅力を感じる活動の創造と支援等。